

校長ニューズレター(第11号・2月号) 宜野湾市立長田小学校校長:横山芳春



総合表現にとりくんで育ったこと

総合表現に取り組みだしたのは今年の5月でした。宜野湾市の研究指定校に平成20年度から指定されており、研究テーマは「伝え合う力を高め、豊かな心の育成へ」でした。

総合表現は、歌と朗読と体の動きで教材の持つ内容を表現する取り組みであることから、この研究テーマにぴったりと考え、実施にふみきりました。

ただし、先生たちも子どもたちも、経験したことのないチャレンジでした。そこで、共同研究者である川嶋環先生と西江重勝先生からアドバイスをいただきながら、手探りで進めてきました。

子どもの自信・自立心(総合表現のねらいでもある)を育てていくには時間がかかります。しかしながら、8か月足らずのとりくみで、確実に子どもたちは育ちつつある、あるいは育ってきたと実感しています。校長として手応えを感じています。

具体的には、1年生で象徴的なことが起こりました。Aさんのことです。担任の先生から離れることのできなかつたAさん(私が表現の練習を見学に行ったときも、担任の先生にくっついていました)。このAさんが、徐々に担任から離れて(徐々に自立)いく様子をつぶさに見てきました。このAさんは、宜野湾市合唱コンクール校内予選に出場し、見事、学校代表として選ばれました。私は、市の合唱コンクールに応援に行ってきました。1年生と2年生から出場したのは、全市でAさんだけでした。他校からは3年生以上でした。Aさんは、堂々と独唱しました。1年生であの大きな宜野湾市民会館で歌うことができるなんてたいしたものです。担任によると、ご両親は涙を流していた

そうです。「長田小学校に入学させてよかった!」とおっしゃっていたそうです。音楽専科の先生も泣いていたそうです。この子の成長をつぶさに見て、川嶋先生のつぎの言葉を思い出しました。

「『総合表現』を通して、それぞれの子どもの中にねむっている美しさあたたかさ、人間としての可能性を発見、引き出してやることです(『総合表現』をするのではないのです)。どの子どもどの子ども、その子としての可能性を持っているものです。歌としての美しさではなく、子どもの自然の姿の美しさの方に目をむけたいものです」

「子どもは、総合表現で自分の姿を見せてくれます。ひろってやって下さい。生き生きとして他の教科まで意欲的になってきます(私の経験から)。これが学校、教師の仕事だと思います。言葉で『どの子ども生かす』というのは簡単です。実践は困難です。苦しいです。でもその山を越えた時の喜びは教師として最高の時です」

つぎに4年生の子どもたちが総合表現で学んだことを子どもたちのこれまでの感想からさぐってみましょう。

「川嶋先生が『みんな上手』と言ってくれました。そのときみんなうれしそうでした。音楽発表会ときには、春を歌ったときに、川嶋先生からならったことを思い出しながら歌いました。それに、歌った後はとてもすっきりしました。川嶋先生から習って上手に歌えたことがうれしかったです。ありがとうございました。」

「最初は、冬の歌はむずかしかつたけど、川嶋先生が、『楽しい気持ちになって想像して歌いなさ

い。」といったので、わたしはクリスマスを想像しました。想像しながら歌ったら、だんだん楽しい気持ちになってきて歌うのが楽しくなりました。

子どもの四季を歌うときは、季節ごとに想像をしながら、楽しい気持ちで歌うことを学びました。

わたしは、秋の歌が苦手なので休み時間や休みの日に練習をしたいです。四年生が子どもの四季を覚えたら、川嶋先生や、先生たちに見せたいです。川嶋先生、ありがとうございました。」

「川嶋先生が、『大きな声、でているじゃない。』といったので、とてもうれしかったです。私はどんどん、楽しくなりってきました。川嶋先生と子どもの四季をやると、とっても楽しくなります。もっといっぱいいっしょに歌いたいです。」

「冬の歌詞の最初の発音が冬の『ふ』なので、何度も『ふっ、ふっ。』といいました。でも冬といったときは、なぜか、『ふ』が小さくなるのです。それがふしぎで川嶋先生に聞くと

『口を大きく開けるといいよ。』

とても冬の『ふ』がおおきくて、冬といってもそのまま大きいままでした。

『すごいな』

と思いました。そして、私は、何回もやってとてもたのしくなりました。まるで、川嶋先生からふしぎなまほうをかけられた気分でした。もっとまほうをかけられたいです。次は春夏秋もいっぱい学びたいです。」

「二組のじゅん子先生の声はとても上手だったので、わたしも、じゅん子先生と同じぐらい上手になりたいなと思いました。」

「川嶋先生の勉強は、分かりやすいでした。また、教えてもらいたいです。楽しみです。そしてうまくなったら、おばあちゃんとかに、きいてもらいたいです。川嶋先生にもきいてもらえたらいいなと思っています。川嶋先生からいっぱい歌を習いたいです。算数の勉強も教えてもらいたいです。」

「私は、川嶋先生から自信をもらいました。私は、最初やりたいという気持ちはあったけど、きんち

ょうしてあんまり発表ができませんでした。だけど、川嶋先生と楽しみながらやると自信がついてきて発表がとても楽しくなるようになりました。ありがとうございました。」

「子どもの四季の歌ふたつ教えてくれてありがとうございます。つぎは、夏、秋、冬の歌も、できればおしえてください。一つ目の歌は、良かったです。二つ目の歌のわらべ歌は、とってもおもしろかったです。だから、二つとも家でかぞくみんなにおしえて、次にみんなといっしょにうたうと、とってもおもしろかったです。次は、夏、秋、冬のうたもまなんで、うちでまた、うたいたいです。川嶋先生、うたおしえていただきありがとうございました。夏の歌も秋の歌も冬の歌もおしえてください。」

「私は、環先生と一緒に『子どもの四季』を朗読する前は、詩とかきょうみがなかったけど、詩っておもしろいな～と思いました。だから、いろんな詩をたくさん読みたいです。詩をみんなで読むのもたのしいし、一人で読むのも楽しいです。ありがとうございました。また、環先生と、詩を読みたいです。」

「ぼくは、川嶋先生から楽しみをもらいました。なんでもかと言って、かなしいときに歌を歌うと楽しくなったり、うれしくなったりしたから、子どもの四季って楽しくなったり、うれしくなってとても楽しかったです。この楽しいきもちを、また7月で、また歌いたいです。」

「私は四年の五月まで、『人前で楽しく歌う』なんてこと、やったことがありませんでした。けれど、五月に、川嶋先生にこどもの四季を指導してもらって、私はとても変わりました。実は、私は最初、『何でもこんなことやるのかな』とか『少しめんどくさいな』と思っていました。けれど、やっているうちに、なんか、私が、楽しんでることに気づきました。」てつきさんから、声の大きさを学んだり、先生方から、声の音程や大きさを学んだりして…」

「私はいっぱい学んだことがあります。その中で、

私はこれだとみんなの気持ちがつながると思うのもありました。それは、『自分が歌っていないくても心の中で、歌っている人を応援する』これが私の総合表現で学んだことの一番すばらしいものだと思います。」

「自分が歌っていないくても心の中で歌っている人をおうえんしました。すると、気のせいかな、うたっている人の声が大きくなりました。私はこれを学んだので、声が大きくなったり、ほかの人も上手になったのでうれしかったです。もっと学びたいです。」

子どもたちの感想をまとめてみると、

上手に歌えるようになってとってもうれしい

想像しながら歌えるようになった

もっとうまくなりたい、もっと練習したい、やる気が出た。

歌うことが楽しい

ほかの人を応援すること

4年生子どもたちは、上記のような感想をもっています。表現活動をとおして、向上心が高まっている様子や、歌うことの楽しさを実感している。子どもたちが心を開いていることが伺えます。すばらしいことです。

つぎは5年生の子どもたちが総合表現で学んだことや感想を掲載しましょう。

「ぼくが川嶋先生から学んだことは、自分の出番でないときも、集中して自分の出番のときに、スムーズにでれるようにすることです。その方法をするともスムーズにでれることができました。またさらに、自信ができました。」

「川嶋先生は、いつも、みんなはずかしいと思っていることを、『大丈夫、はずかしくない』とっています。みんなも、最初は、『えー』といていたけれど、だんだん心を開いてきて、まだはずかしいけれど、何も言わず、笑いながらもやります。ぼくがこの学習から学んだのは、『正直な心と勇氣』です。これからも、何事にも勇氣を出してチャレン

ジしていきたいと思います。」

「私が学んだことは、かたくりの花の詩や歌をパートごとにやるとき、人にたよらず自分で詩を言ったり歌を歌ったりすることです。あと、指揮をちゃんと見て、大きく息をすってゆっくりと話すことも学びました。」

「私が学んだことは、はずかしがらずに、いやがらずにいろいろやってみるといことです。先生にあてられても、はずかしがらずにやれば、みんなの手本にもなるのでそうしたいです。」

「私が学んだことは、はずかしそうにしないこと、そのときの状況をイメージして、それになりきってすることなど、他にもたくさんあったけど、私がいつも意識しているのは、大きな声をだすことです。私は、これを二学期の目標にしたいと思いました。これからは、かたくりの花を通して学んだことを学校生活や家庭生活にいかしていきたいと思います。」

「自分の気持ちの中で、『みんな、笑っていないかな、もんくを言っていないかな』と思つて、自分があまり大きい声で、歌えないから、恥ずかしくなってきました。

でも、川嶋先生が『人目を気にしちゃうダメよ』と、言ってくれたので、私は、人の目を気にせずに、歌うことができました。それに、歩きながら歌うことができるようになりました。

今、思うと、人の目を気にしていた自分のほうが、とても恥ずかしいんだなと思つてきました。」

「最初のポーズもしました。私は、下でやっているけど、本当は、『立ってやってみたいな〜』と思つていたけど、はずかしいから、立てなかったです。だから、今度は、できるだけ、積極的にやりたいと思います。」

川嶋先生は、はずかしい人は、下を見てもいいと言いました。なので、私は、好きなポーズをしていました。

学年練習で学んだことは、自分を表現することです。私は、自分を、きれいに表現？ポーズとか、

歩きとかは、あんまり得意じゃなかったけど、少しずつできるようになってます。でも、もっと上手になれると思うので、かたくりを通して、もっと自分をきれいに表現したいと思います。」

「2組が言う詩の所を聞いていると、ひな子の声が大きくて鳥肌が立ちました。あと、ひな子のかたくりの花のポーズはとてもきれいで、指先まで力が入っているようで、きれいでした。私も、ひな子のように大きな声とか、ポーズが恥ずかしがらずに出来たらいいなと思います。」

「発表や授業で目立つ事が苦手だったけど、川嶋先生の授業で少しだけ、3人で言うところもあるし、立ってポーズをしたりと、少しずつ、いろんな事のチャレンジしていくのが楽しくなってきたからです。私はかたくりの花を完成させるまで、みんなと精一ぱいがんばっていきたいです。」

「私が学んだことは、『自然でいい』ということと、『気持ちが大切』ということです。

自然でいいというのは、人に言われたからこうやる、じゃなくて、自分で考えてやるということです。

気持ちが大切というのは、『いまからがんばるぞ』とか、『これは、どうやればいいんだろう』と、やる気、考える気持ちです。----やる気、努力で、いやだ、やりたくないという気持ちに打ち勝つ気持ちが大切なんだろうと思いました。」

「私は、総合表現の授業で、私の中からはずかしいという気持ちがなくなりました

私は、初めは声も小さくてすごく自信がありませんでした。でも川嶋先生は、

『大丈夫、上手だから』

と言ってくれました。なので私は、

『これでいいんだ。でも、もっと声を出せば今より上手になれるかもしれない。』

と自信が出ました。はずかしさにまけないようにがんばります。」

「これから、私は、自分が言うところだけを考えるのではなく、ほかの人たちが発表しているところ

をマネして、どんどん学んでいきます。そして、ほかの人が発表している風景をそうぞうして、がんばります。」

「さいしょは、かたくりの花めんどくさいしやりたくないとか、いろいろ思っていました。だけど今になっては、かたくりの花いつやるのかなとか、発表会がんばるぞなど、やりたいという気持ちが出てきました。いい経験になりました。私の一生の思い出になると思います。」

「口を大きくあけた事で、とても勇気がわいてきました。先生たちに教えてもらって今は、勇気が出せるようになりました。声を出せるっていいなと思いました。」

「私が学んだ1番は、失敗をおそれないです。この失敗をおそれないは、この短期間で、大きく私を成長させたし、2倍、3倍に自分に自信が、持てたような気がします。」

「かたくりの花をやって、練習すればなんでもできるということがわかりました。なので、あきらめないで何度も練習してできないことをできることにしたいです。」

「私は、今までみんなといっしょにかたくりの花をしてとても楽しく学ぶことができました。これは一人や数人でできることではないと思います。5年生みんなでやったからできたことだと思います。」

「この学習で、はずかしいがらず、色々なことにチャレンジして、ならったことを生かしていきたいと思います。かたくりの花をやってよかったと、今すごく思います。」

子どもたちが学んでいるように、先生たちも学んでいます。先生も子どもと一緒に学び合う。これは学校の理想的な姿だと思います。ひきつづき先生たちの感想をのせましょう。

「想像力を培っていくためには、読み聞かせをたくさんしようと思いました。想像することができれば、表現することが楽しくなって、学習意欲も加速していくことでしょう。学習の楽しさを味あ

わせると自信に繋がる事でしょう今回1年生は、人との関係で、集団の中の一人として頑張ることを教えてもらいました。1年生にとっては、社会性への大きな進歩でありました。」(1年教諭)

「今回の表現活動で強く感じたことは、継続して指導することの大切さである。日頃から朝の活動や音楽の時間を使って歌の指導をしているが、身につけていない子達がいるということは、指導方法に問題があったということだろう。指導しているつもりになって、教師側の勝手に進めていたということに気付かされた。子ども達の内側から出てくるも 表現という欲求を引き出す指導方法を見つけなければと強く思っている。」(1年教諭)

「教室から出た時から演技が始まっている。自分は主役であると意識付けさせる。入場する際は指揮者だけを見る。一点に集中する(隣の人は気にしない、身体を触らない)。息を出す場所(方角)を具体的に伝える。声のでている場所を示す、などを学びました。反省は、指導の際、指揮者が中心に指示を出しているが、(指揮者ではない私が)子どもたちに指示をだしすぎてしまった。子ども達がどの教師の指示にしたがえばよいかよいかかわからず、混乱させてしまった。」(1年教諭)

「西江先生からの第一声は、『子どもの並び方、立ち方に進歩がない』でした。一本の線になるようにする子ども達を、どうしたらのびのびと独立して立たせることができるのか。一人一人が指揮者を見るには、声を出すには、表現するには、やっぱり友達と近づいて並んでいてはできない。そのために立ち位置ということ子ども達にも伝え、練習が始まりました。子ども達もやっと分かってくれたのか、少しずつ間隔をとって並べるようになってきたと感じました。」(1年教諭)

「前回学んだ『子どもたちの立ち位置』や『体育館の使い方』に気をつけて子どもたちに総合表現を学ぶように指示していました。今回、そのことは子どもたちができていたのでほっとしました。

しかし歌いこみ不足なのか、子どもたちの声あまり出ていなかったという指摘を川嶋先生から御指摘されました。今後、子どもたちが子どもの四季を自然に表現できるようにするために、子どもたちが自信を持って歌えるよう学級でメロディーを指導します。」(4年教諭)

「声のあまり出ていないグループに対して『声が小さい』と言わずに、AグループとBグループに分けて競わせ、いいところを学ばせる方法をとって指導していた。目に見えるように児童が変容した。担任も児童も必死である。全身で学びの場を受け入れ、吸収することができた。感動だった。」(4年教諭)

「今回の総合表現で2つのことを学びました。1つめは、総合表現は子どもたち同士の学び合う場であるということです。歌を歌いながら、目を合わせ、ほほえみ合う子。声が大きく出ている子の様子をじっと見て真似ようとする子。『こんな風に歌ってごらん。』とやさしくアドバイスする子。声はあまり出さないが、友だちと体をゆらしながら、気持ち良さそうにしている子。これらのことを通して、個から集団、そして全体へのつながりへと広がっていくのだなと感じました。

2つめは、教師の役割です。教師や、子どもたちが総合表現で何を感じ、何を思ったのかを表情や動き、日記、作文から感じ取ります。それを次の瞬間から生かすのです。子どもたちの作文には、-----『あの子のようにきれいな声で歌いたい』というあこがれ、-----『家でも練習しよう』という意欲があふれています。私は、子どもたちの持っている無限の可能性を引き出し、のばしていくよう務めたいです。」(4年教諭)

「最初はすごく恥ずかしそうで小さくかぼそい声でしたが、やっているうちにどんどん声が出てきます。『全体でやっているときは声が小さい』といって叱ってはいけません。後で個人指導をしてあげればいいんだから。」とおっしゃった川嶋先生の言葉かけが胸にしみます。個人指導も見学させて

もらいましたがやっぱり、ほめ上手な先生の言葉かけ、どんどんいい声のでてきました。今度は、ここまで声を届けてごらんといいながら、体育館後方へどんどん下がっていきながら声をださせていくテクニックはすごいなと思いました。

みんなと違ったポーズにチャレンジした子への意欲に対する言葉かけをしっかりと見逃さず、『指先までしっかり表現するといいよ』『目はこちらを見た方がきれいだよ』『あなたの目がいい』、子どもたちはそんな言葉かけをしっかりと覚えていて、次の自分自身の自信や意欲につなげて、またそんな友達の頑張りをお互いに認め合っているのが各個人の感想からわかりました。

最後に総合表現の良さは、

ひとりひとりが主役であること、

それぞれの良さが引き出されていく、また自分の良さを発見していく、

自分の頭で考えて歩く、

最初の頃より(9月現在で)『かたくりの花』を楽しみにしている子どもたちが増えてきました。壁にぶつかり乗り越えたことが自信になっているようです。」(5年教諭)

「学級の児童の一人が授業後の感想でこんなことを言っていました。『かたくりの花の授業を通してみんなとても成長しました。かたくりの花がぐんぐんと伸びているように感じました。とてもキレイでした。』この一言に子どもたちの成長と『かたくりの花』の授業を通して得た自信を感じることができました。また、子どもたちが川嶋先生や西江先生だけでなく、校長先生や5年生の先生方、伴奏の眞弓先生(図書館司書)、教頭先生、音楽発表会にむけて指導して下さった田崎先生など多くの先生方に感謝し、授業に取り組む姿勢や考え方が変わってきていることが、一番うれしく思いました。そして期待されていることを感じとり、これからのめあてを高く立てている姿に大きな成長を感じました。」(5年教諭)

「2日間、かたくりの花に取り組んだが、4連の

全体合唱がとても上手になってきた。子どもたちの集中力が増しているように感じた。これから子どもがどのように変容するのか期待している。

今回(11月)の講師招聘研修会で、横須賀先生から、子供たちをリラックスさせながら、元気に楽しく表現させることの大切さを改めて学びました。」(5年教諭)

さいごに1年生保護者のありがたい感想です。

「子供達のかざらない素の演技がカワイくて、とても良かったです。ナレーションにあわせて表現するのはシンプルなようで、一番大変な事だと感じました。元気いっぱい表現する子供達から最後まで目がはなせませんでした。子供のたくましく成長した姿をみるたび、先生の日々の努力と忍耐と育む力に感謝の気持ちでいっぱいになります。(わたしの子どもは)先生に出会えて、本当に成長したと思います。有難うございます。先生といつもいっしょにいられるのもあとわずかですが、どうぞ宜しくお願い致します。」

あたたかいお手紙ありがとうございました。担任の先生はとっても喜んでいました。

本校ではじめて試みた総合表現で、子どもたちと先生たちが何を学んだか、子どもの何が育ったのか、子どもたちや先生たちの直接の言葉で伝えました。書いているうちに、子どもたちの感想をどれもこれも紹介したくなり、つい枚数を重ねてしまいました。

子どもたちに少し高い山をあたえて、それを乗り越えさせることで、やる気や自信がついてきました。新年度も、高い山(努力すれば越えられる山)を子どもたちに提示していきます。先生たちにとっても、それは高い山に変わりはありません。共同研究者である川嶋先生、西江先生、狩野先生、横須賀先生たちに応援をしてもらって、かならず乗り越えさせていきます。ご理解と応援をお願いします。